

《留学生から》

タイ国王について

ピサヌ・カノンシャイヨス（タイ、情報科学専攻 修士1年）

ラマー九世と呼ばれているタイの国王は去年の6月9日で50年タイを支配して来たことになる。この50年の間に、15版の憲法、17回のクーデター、そして21名の総理大臣など様々なことを経験している。従って、彼は現代のタイの歴史にとって最も重要な役割を果たしてきたのでこれからの話は皆さんに大変興味深いと思う。

国王ラマー九世はアメリカのマサチューセッツ州にあるマウントオーバン病院で1927年に生まれた。その時、彼の父、当時の国王の弟はハーバード大学で医学を勉強していた。ラマー九世はラマー七世国王にプミポン・アデュラヤデジと名付けられた。プミポン王子が二歳の時、父は他界して彼は母、姉、兄とスイスに移り住んだ。ラマー七世が王位を放棄した後、彼の兄、アナンタマヒドン王子がラマー八世になった。

しかし、彼と兄は当時、まだ10歳に満たなかったのでスイスで勉強を続け、やがてローザンス大学に入った。ところが二人が短期間の予定で帰国した時、ラマー八世は暗殺されてしまって、プミポン王子が国王ラマー九世として王位を継ぐことになった。最初は彼自身一時的な国王でしかないと思っていたが、スイスに勉強を続けるために戻る時、道路にいた彼を送りに来た人々から「王様、国民のことを見捨てないで」というような叫び声が聞こえてきた。その時、国王は「もし国民が私のことを必要としているのに、どうして私が国民のことを見捨てられるだろうか」と思ったそうである。20年後、国王は当時、自分に向かって叫んだ人に会った。その人は王様がもう二度と帰国しないのではないかと不安だったと言った。そして、国王はあの叫びが私に自分のしなければならぬ仕事を思い知らせてくれたのだと答えた。

「私はサイアム国民の幸福と恩恵のために有徳的に国

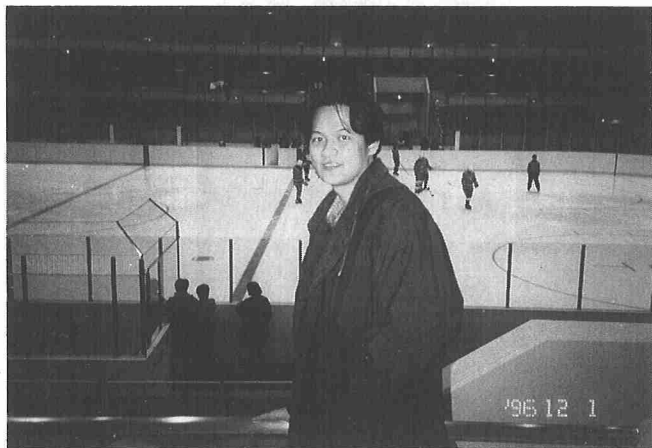
を支配する」すべてのタイ人に50年の間にわたって、して下さっている。彼は自分を水に、女王を森林に例えて、仕事を分けた。どんな遠い地方にも彼は自分で出かけて行って、色々な問題に対して解決する方法を提案する。さらに、彼の住んでいる王宮で色々な農業技術・実験もさせている。このように、王が始めたプロジェクトが千以上ある。

政治の面では、タイの憲法によると、国王は相談される権利、奨励する権利、そして警告する権利を持っている。けれども、これまでに国王が実際の自分の権力を使ったことは二回しかない。まず、1973年10月の学生達の独裁的な政府に反対するデモによって何人もの人々が殺された時、国王は突然、テレビに出て3人の陸軍元師をやめさせて国外に追い出した。そして彼のおかげでこの内乱はすぐにおさまった。次に1992年5月、20年前と同じような惨事がもう一回あった。当時の総理大臣は総理職を自ら放棄したので、国王は国会議員ではない新しい総理大臣を立て、混乱はおさまった。

二年前、南の方で大洪水によって大きな損害があった時も、国王はまた政府の行う対策を提案した。

このような政治的手腕の他、彼は美術や音楽や文学やスポーツなどの様々な分野でも天才だと言われている。今まで国を支配して来た51年間、国王は自分の苦労は気にかげず、懸命に即位式の宣誓のように仕事をしてきた。それは、彼にとって国王という地位は国民の主人でなく、ただ、国民に仕える地位を意味しているからである。従って、タイ人の深く国王を愛し、尊敬の念は驚くべきことではない。国王無しでは今のタイが存在することは絶対できなかった。私はそのように信じている。

国王万歳！



留学一年生の Reporter

金 玟 秀 (韓国、生物化学専攻 修士1年)

去年の今ごろは“さよならパーティー”をやっていたのに…

今日は一年間の日本生活について語っている。

一年前… 4月1日日本に来た時、雨が降っていた。

一生忘れられないいいとしい雨だった。

この季節は雨が多いかな… 最近は雨をよくみるけど、去年のあの雨とは比べられない。

同じ季節を向かえるようになったな… もう。

初めての日本生活について話そうとしていたのに…

ウンー 日本は違う。私が育ってきた所とは。

もちろん、日本以外の国で生活したこともないので比較できないし、新しい生活で精一杯だった一年であるため日本をみる余裕もなかったし、一年の生活で“この国は××だ”と言いたくない。でもこの国は違う。

簡単な生活習慣 ― はしの重さ、右側通行など ― から日本人特有の言い方、つき合い方、そして私が絶対に探している日本の倫理など。

一人暮らしを初めてしている (しかも外国での) 私にとっては最初“生活”自体が慣れなく、洗剤を買おうとしても“これは何に使うものかな”、“しょうゆ”ってどんな漢字だったげ、など スーパーでわからなくて迷ったり、みかけわが国のと似てるからいいだろうと思って買ってみると、全然違うものだったり、一人暮らしていること考えずに家の買いものをするように大量に買って食べきれなくなったりしてドクター終るまで使えるくらいのしおを持っていたりして失敗と笑いものばかりだった。

電車の切符だってあしたの朝は込むかもしれないと思って前の日二枚買っておいたら“ぶー”となり使えなかつ

たり、ゆき先の地名を読めなくてきいたりした。

今は何もないことで笑っちゃうかもしれないがその時は深刻な問題だった。でも生活は一回の経験ですぐ慣るもので振りかえてみるとおもしろいかも。でも、日本人とのつき合いはなかなか超えにくい高い壁かも知れない。

この雑誌の同じコラムを読んだことがある人なら“あー、この人もまた同じこと言おうとしている”と思うかも知れないので私はここでは語らずに飛ばそうとしている。(前のものを参考にして下さい。前のコラムを読んで“あー私と同じことで悩んでいたんだ”と思いましたので) けど、この国の“仲間入り”って言うチョウむずかしい言葉を自分は習った。テレビがない私にとってこの社会をみる窓口は医科研に行く電車。私が日本を感じられる一番大きな日本社会。いろいろな人がいてタクサンのポスターがあって、話しがあって楽しい所。

最近みったちょっとおどろいたポスタには①電車の中、座ってる若い人の前におばあさんがくる絵→②おばあさんに席をゆずる絵。そしてコメントは“勇気を出して席をゆずってよかった。”と書いてあった。席をゆずるくらいのものが勇気を出すものなんだ。この国では…もちろん私と同じ教育を受けてきた人たちではないので同じだと思ったら間違えだろうけど、日本社会一ぱんの倫理をまだみたことがないような気がした。

隠れているらしい。よし！おにになってみつけてやろう！医科研のさくらも今週で満開になりそうだ。この国が一番美しい時、さくらの咲く4月。2回目のお花見がくだろう。



医科研の研究室でヒアパーティー (一番右端が金さん)